

働くことは、社会に役立つこと～一生勉強、一生青春～

群馬県経済同友会出張授業

日時：2019年7月19日（金）

講師：林明夫氏（株式会社開倫塾 代表取締役社長）

学校：群馬県高山村立高山中学校

こんにちは。群馬経済同友会の会員で、開倫塾塾長の林明夫です。皆様がメモを取らなくてもよいように、レジュメ(資料)を作ってきました。まずは、レジュメの表紙をご覧ください。

<はじめに>

1. (1) 今日のお話のテーマは、「働くことは、社会に役立つこと」です。これは、学校の校長先生からお願いされたテーマです。「働くことは、社会の役に立つこと」だと私は考えます。
(2) 私の育った家の前を散歩なさっていた、「相田みつを」さんという書家の先生が遺されたことばに「一生勉強、一生青春」があります。「一生勉強していると、一生青春で、いつまでも若々しく生きられる」という、このことばが私は大好きなので、今日のお話のサブタイトル(副題)とさせていただきます。
(3) 皆様にお配りしました「レジュメ」にそってお話しますので、えんぴつやボールペンを手に取り、参考になると思われるところには、線(アンダーライン)を引きながらお話をお聞きください。

<私の好きなことば>

2. 自己紹介の代わりに、私の好きなことばを紹介させていただきます。
(1) 最初のことばは、「ブルドッグ魂」です。私が栃木県足利市立山辺中学校の2年生と3年生のとき、クラス担任だった岡田忠治先生から教わったことばです。岡田先生がいつも私たちに教えてくれたのが、「ブルドッグ魂」です。今のブルドッグは結構かわいいですが、昔のブルドッグは一度ガブッと噛んだらなかなか離さないというイメージがありました。岡田先生は「ブルドッグ魂」、つまり「食いついたら離すな」とよく教えてくれました。「一度始めたことは諦(あきら)めないでやること」は、私にとって大切な考えとなっています。
(2) 2番目のことばは、「練習で泣いて、試合で笑え」です。私は小学校のころは柔道を1回もやったことがなかったのですが、中学校のときは部活動で柔道をやっていました。柔道部の監督の椎名弘先生が教えてくれたのが、「練習で泣いて、試合で笑え」です。椎名先生は、宇都宮大学の学生のとときに柔道部の部長で柔道5段でしたので、練習は本格的でした。泣きはしませんでした。結構つらい練習で、お昼休みも練習、授業が終わると練習の毎日でした。私が住んでいた栃木県足利市は柔道がさかんで、街には柔道場がいくつかありましたので、夜8時から大人と一緒に柔道場で練習をしていました。夏休みには暑中稽古や合宿、冬の寒い朝には寒中稽古。そのおかげで、元気に暮らしています。
(3) 3番目は、慶應義塾大学の小泉信三先生の「スポーツの3つの宝」ということばです。スポーツをやると宝物のような3つの素晴らしいことが得られるということだと思えます。
① 宝物の第1は、「練習は不可能を可能にする」です。小泉先生はテニスの監督の先生でした。テニスが最初は全然できない人も、練習すればするほどうまくできるようになる、試合で勝てるまでになる。練習をすると、それまで不可能だったことも可能になる。素晴らしい考えだと思えます。
② 宝物の第2は、「フェアプレー」です。すべてのスポーツはルールがあります。テニスにもルールがあります。スポーツをするときには、「ルールに従ったプレーをする」ことが大事

です。それと同時に、「正々堂々(せいせいどうどう)とプレーをする」「いやしいプレーはしない」。この「フェアプレー」の精神が大切と考えます。

③宝物の第 3 は、「よき友」です。スポーツをやっていると、チーム内や同じスポーツをやっている人々の中で生涯の友達ができます。小泉先生は、「よき友人が得られる」のがスポーツだということを教えてくれました。

(4)この「スポーツの 3 つの宝」は私が大好きなことばなので、今日皆さんに紹介させていただきました。

(5)好きなことばがあると楽しいですよ。好きなことばがなくても人生を過ごすことはできます。好きなことばがたとえ 1 個か 2 個でもあったら、とても楽しい気持ちになれます。私は中学時代や高校時代、大学時代、また、働き始めてからいろいろな方々から教わったことばがたくさんありましたので、忘れないようにノートに書き、何回も、何回も読み直して大切にしています。皆様も、先生方から教えていただいたことばはできるだけメモして大切にしてくださいね。

<仕事とは世の中の役に立つこと>

3. (1)今日は、お仕事の話をしていただきます。「仕事とは何か」という話です。

(2)仕事とは何かを考えると一番大切なのは、「すべての仕事にはお客様がいる」ということです。例えば、私は今日、宇都宮市から新幹線に乗って、大宮で乗り換えて上毛高原駅まで来ました。私は新幹線のおかげで上毛高原駅まで来ることができ、高山中学校にたどり着いたわけですね。新幹線にとって、乗客である私は「お客様」です。今日は時間がなくてここまで車で来ることはできませんでしたが、新幹線に乗ったおかげで、短い時間で到着できました。とてもありがたかったです。新幹線は駅員さんたちを含め、私が一番困っていた「宇都宮市から早く高山中学校に着く」という問題を解決してくれました。新幹線はお客様のお役に立ったということです。それが仕事ですね。

(3)私以外にも、同じように短い時間で目的地に到着したいという問題で困っていることを、新幹線によって解決してもらいたいと思っているお客様は、世の中にたくさんいます。仕事というのは 1 人のお客様に役に立つだけでなく、世の中のためにも役に立つと考えます。

(4)このように、「仕事とは、お客様のお役に立つと同時に、世の中のお役に立つこと」だと考えます。皆様のご家族で車に乗っている方は、ガソリンスタンドのお世話になっていると思います。そのガソリンスタンドには、1 日に 100 人近くのお客様が訪れ、1 か月には何千人もの方がガソリンを入れるために訪れると思われれます。このように、お客様は 1 人だけではなく、たくさんいるわけです。お客様のお役に立つと同時に、世の中のお役に立つ、それが仕事だと考えます。皆さんはどのように考えますか。

<なぜ人は仕事をするのか>

4. 次に、「人はなぜ仕事をするのか」というお話をいたします。3 つの理由があると私は考えます。

(1)理由の第 1 は、「生活できるだけの収入を得るため」です。仕事をするのは、収入を得るた

め・お金をもらうためだと考えます。お金がもらえるのはありがたい。けれども、一体いくらもらえるのか、金額も大事ですね。1日働いて100円(約1ドル)だと、生活するのが大変厳しい。100円だとパンが1個しか買えないかもしれない。では一体、1日働いて幾ら位もらえたらいいか。「生活できるだけの収入を得ること」が大事だと思います。家族の中で働くことのできる人は働いて、みんな合わせて「生活できるだけの収入を得る」、それが人が仕事をする理由の一つだと思います。

(2)理由の第2は、「お客様や世の中のお役に立つため」です。

(3)理由の第3は、「自己実現のため」です。仕事を通して、「喜びを感じる」こと、「ああ、今日は生きていてよかったな」と自分自身、納得して生きることができる、これが「自己実現」と考えます。お客様から「ありがとうございました」とお礼のことばを言われて、「今日は仕事をしてよかった」と感じる方がたくさんいます。仕事をしていただき、お世話になったら、「ありがとうございます」「Thank you」の一言を忘れないようにしましょうね。

(4)2年生の方は、これから職場体験に行かれるわけですが、そこで仕事をする方をご覧になって、この職場の方のお客様は、一体誰(だれ)なのか、仕事をすることの喜びとは何かということも考えてくださいね。

<中学校の勉強は役に立つか>

5. (1)もう少し本格的に考えたいことがあります。それは、**中学校の勉強は役に立つのか**ということですが。今やっている中学校の勉強は役に立つと思いますか。皆さんの中にはもしかすると役に立たないと思っている方がいるかもしれませんが、私は役に立つと思います。「**中学校で習っているすべての教科の内容はすべて役に立つ**」と考えます。

(2)では、質問です。一番役に立つ科目は何でしょうか。私の考えは、「**保健体育**」の保健です。なぜかという、保健の教科書をよく読んで、先生方のお話を聞いて、なおかつ、体育の授業をちゃんと受ければ、皆さん本当に健やかに長生きすることができるからです。病気を患う確率も減ります。命が一番大事ですので、命を守るのなら保健体育の保健が一番大事ですね。私の知り合いには、たばこを吸い過ぎて健康を害した方がいっぱいいます。それは、保健体育の保健の勉強が足りなかったのです。ですから、勉強って大事ですよ。

(3)「**美術**」はどうですか。デザインなくして、世の中は成り立ちません。「**音楽**」はどうですか。音楽なくして、世の中は楽しめません。美術なし、音楽なしの人生や世の中は考えられません。「**家庭科**」はどうでしょう。家の中が散らかっていたり、家庭のことがやれていなかったら、家庭は成り立ちません。「**技術**」もそうですね。ですから、今、挙げた科目は全部大事です。

(4)もちろん「**英語**」も大事です。これから先、英語ができないで世の中を渡っていけるかという、大変かもしれません。私はよく外国に行きます。例えばフィンランドに行って中学校・高校を訪れたことがあります。フィンランドの中学生は私がフィンランドのことばがわからないことを知った瞬間に、私のために英語で話してくれました。中学生が、すべて英語で学校を案内してくれました。高校でも全く同じで、高校生がすべて英語で学校を案内してくれました。何が親切かという、例えば皆さんの学校や家に外国からお客様がやってきて、

その方が日本語がわからなかった場合には、英語でお話したり、コミュニケーションを取ったりするのが一番の親切と考えます。このように、英語によるコミュニケーションは欠かせないですね。

- (5) 「**数学**」はどうでしょうね。皆さんの中には、スマホが好きな方がいるでしょう。スマホの使い方を本格的に勉強することも大切でしょうが、できればパソコンも本格的に勉強したほうがいいです。パソコンで例えば **Word** とか **Excel** を本格的に勉強する場合に一番役に立つのは、数学ですね。中学校の数学も役に立ちますが、高校の数学はもっと役に立ちます。数学の勉強をしていないと、超スピードでどんどん進化し続けるパソコンを使いこなし、仕事に生かすことは難しい。スマホも実は奥が深いのです。パソコンとなるともっと奥深い。高校レベルの数学の知識なしではすまされません。中学校の勉強はもちろんですが、高校 3 年の数学まですべて役に立ちます。
- (6) もちろん書いてあることがわからなければ話になりませんので、「**国語**」も大事です。
- (7) 「**社会**」も大事です。その国、その地域の歴史・地理・法律・経済・国際関係などがわからなければ、もう大変なことになるのです。仕事どころじゃなく、生活すらできない。その基礎を学ぶのが、中学校・高校の社会科です。
- (8) 中学校の勉強はどこで役に立つのか。中学校の勉強は全部、高校で役に立ちます。高校の勉強はどこで役に立つのかというと、大学で役に立ちます。専門学校・専修学校で役に立ちます。短期大学で役に立ちます。もちろん、大学院で役に立ちます。社会に出て仕事をするときにも、また、社会的な活動をするときにも全部役に立ちます。中学校の勉強と高校の勉強が足りない方は、大学へ行っても大変です。私は宇都宮大学や作新学院大学で教えています。中学校・高校の勉強が足りない方は、もう一回勉強し直すことが求められます。そうならないように、すべての教科をまんべんなく、中学校・高校でしっかり勉強しておいてください。定期試験も十分に準備をしてから受けてください。それまで学んだことを身に着けるのに、学校の定期テストはとて役に立ちます。
- (9) 「**教科外の教育活動もすべて役に立つ**」と考えます。クラブ活動や生徒会活動、終業式や始業式、運動会などの学校行事、社会体験や修学旅行などは、将来いろいろなところで役に立ちますので、全部必要です。学校でやっていることで、無駄なことは 1 つもありません。ですから、一所懸命やってください。このように、中学校の勉強や教科外の教育活動をしっかりやってもらいたい。
- (10) 「**教科書や教材は保存し、一生かけて学び直す**」こと。小学校・中学校・高校で勉強した「教科書」、参考書、辞書、地図帳、歴史表などの「教材」は捨てないほうがいいですよ。あとで必ず役に立ちます。どこで役に立つのかというと、上の学校で役に立ちます。社会に出てからも役に立ちます。学校で使った教科書があれば、30 歳、40 歳、50 歳、60 歳、70 歳、80 歳、90 歳、100 歳になってから、何回でも勉強し直すことができます。すべて役に立ちます。ですから、特に学校の教科書だけは絶対に処分しないでください。一度学んだことは、教科書があればいくらでも思い出せますが、教科書が手元にないと思い出せないからです。一度学んだことでも、新しい教科書で勉強し直すのにはものすごいエネルギーが必要です。一番いい方法は、教科書を身近に取っておいて、何年かに 1 回でよいから、繰り返し、

繰り返し勉強することです。そうすると、幅広い教養を備えた、素晴らしい人生が歩めます。

<勉強の仕方を身に着けよう>

6. (1) 中学校・高校時代に身に着けたほうがいいものは何かというと、「**勉強の仕方**」です。「**テストの受け方**」も身に着けたほうがいいです。なぜかということ、社会に出てからも、新しい教科をいっぱい勉強しなければならないからです。
- (2) 中学生・高校生・大学生だけでなく、社会に出てからが本当の勉強です。テストもいっぱいあります。社会へ出てからもテストをいっぱい受けるのです。新しい教科を勉強するたびに、この教科はどのように勉強したらよいか、テストはどのように受けたらよいかと悩んでいるようだと、勉強は進みません。ですから、中学校・高校時代に、「**テストの受け方**」も含め、「**勉強の仕方**」を身に着けてくださいね。
- (3) 社会に出てからの新しい教科の勉強で忘れてはならないのは、勉強はテキストを読みながら一人であることが中心になるということです。教えてくれる人が少しはいるかもしれませんが、社会に出てからの勉強は「**自学自習**」が中心です。
- (4) 「**勉強の仕方**」で何が大事かといえば、まず「**予習**」です。では、おたずねします。予習は何のために行うのでしょうか。「**よくわからないことをはっきりさせて、授業に臨むために行う**」のが**予習**です。「何がわからないかをはっきりさせてから授業に臨む」ことが、予習では大切です。よくわからないところを中心に、授業でよく聞いて、先生に質問する。これが予習の意味です。最近は「**アクティブラーニング**」「**反転授業**」がさかんに行われていますので、予め出された課題について、自分から進んで図書館などの「**学習スペース**」で予習すること。「**主体的に学ぶ力**」が大事です。
- (5) 次に、「**授業の受け方**」「**授業への参加の仕方**」も身に着けること。
- (6) 「**ノートの取り方**」や「**メモの取り方**」も身に着けること。ノートを取るというのは、先生が説明して下さった大事なことを、ノートに書き取ることです。大事なことがノートに取れないとどうなるか。仕事をするときには「**打ち合わせ**」や「**会議**」がたくさんあります。この次はいつお会いしますか、この品物をいくらで売りますか・買いますか、この商品はどの位作りますか、この仕事はどのような手順・順序で進めていきますかなどを話し合ったり、打ち合わせたりします。細かいことも多く。全部は覚えられませんから、大切なポイントは全部ノートに取ることが求められます。大切なことをノートに取り、それをあとで見直し、仕事に活かすことが大事です。せっかく話し合い・打ち合わせをしても忘れてしまったのでは、同僚やお客様の信用を失って、誰も相手にしてくれません。約束した日や時間を間違えると、大きな損失を与えることにもなります。
- (7) 学校の授業中に大切なポイントをノートに取るのは、社会に出てからの素晴らしい練習になりますので、ぜひやってみてください。授業中に大切なことをノートに取らないで、腕を組んでじっとしている人がいますが、それは大変もったいない。社会に出てから大切なことをメモに取らないと大変なことになりますので、今のうちに練習してください。授業中にちゃんとノートが取れる方は立派な仕事をします。そのノートを繰り返し読んで身に着けると、また立派な仕事ができますので、ぜひノートを取ってください。メモの取り方も覚えてくだ

さい。「仕事はメモで身に着ける」ともいわれます。大切なことはすべてメモして、それを自分のものにして、相手との約束を果たすことが求められます。

<復習をしよう>

7. (1)「復習」も大事です。一度習ったことを早めに必ずやり直して、よく理解することが大事ですね。復習というのは今日やった勉強をもう一回やること、例えば「数学」は同じ問題を解いてみることです。
- (2)「英語」なら、今日習った部分をもう一度大きな声で読んでみる。「国語」「理科」「社会」「保健体育」「美術」「音楽」「技術家庭」も同じです。一度大きな声で読むことをおすすめします。一度大きな声で読むことが、一番いい復習になります。それから、難しいことばがあったら、書く練習をすること。それも大事ですね。
- *楽器が演奏できる方は、音楽の時間に習った曲を演奏することをおすすめします。また、家庭科で習った料理を家でもう一度作ってみるのも、素晴らしい復習です。
- (3)ことばの意味がわからなかったら、「気持ちが悪い」と思い、おっくうがらないで「辞書」で調べてみる。それも復習です。
- (4)「テスト問題」を授業中に解いた科目は、同じ問題をもう一回解いてみる。どうしてもわからなかったら先生に質問する。これが復習です。
- (5)しかし、復習しても忘れてしまうこともあります。どのようにしたら忘れないか。「身に着ける(定着)」ための取り組みをすることをおすすめします。「よく理解できた内容」を正確に身に着ける(定着させる)ために、3つの練習(「定着のための3大練習」)をすることをおすすめします。

①<音読練習>

すらすらとよく読めるようになるまで、大きな声で「読む練習」、「音読練習」をすることが第1です。日本人は英語が不得意だといわれています。なぜ不得意かという、英語の音読練習の絶対量が足りないからです。中国によく行きますが、中国では大学生も本当によく声を出して読みます。英語のテキストを「音読練習」しています。英語のテキストは「音読練習」をしてすべて身に着けるのが、中国の大学生・大学院生です。中国の中学生・高校生は、大学生・大学院生よりももっと「音読練習」をして、学校の授業で習った英語はすべて身に着けます。

②<書き取り練習>

「書く練習」、「書き取り練習」が第2です。書き順も含めて、正確に書けるようになるまで「書き取り練習」をすることです。もちろん漢字です。小学生で1000、中学生で1000位の漢字を身に着けておかないと、社会に出てからの仕事や生活も大変です。漢字を正確に身に着けておかないと、学校の勉強も大変ですが、社会に出てからの仕事や生活にも支障をきたします。やはり中学生のときは小学校で習った漢字を含めて書く練習をして、漢字を身に着けてください。皆さんは書く練習さえすれば、確実に覚えられます。年を取ってくるとなかなか覚えられませんから、覚えるのは今のうちです。高校生になるとまた新しい難しい漢字が出てきますので、高校生になったらまたそれらの漢字の勉強をしてくだ

さい。最近の高校生は、「書き取り練習」をあまりしないようです。中学生のときにしっかり「書き取り練習」をし、高校でも行ってくださいね。「漢検(漢字検定)」は、漢字学習にとっても役に立ちますので、大いに活用してください。

*「書き取り練習」をするのは、国語の漢字書き取りだけではありません。すべての教科の教科書に出てくる「語句」は、固有名詞も含め正確に書けるまでにすることが「書き取り練習」のポイントです。英語も書き取り練習は大切です。

(6)「テストの受け方」を身に着ける。これも役に立ちます。テストの受け方については、テスト範囲について、学校の教科書や教材、問題集、授業ノートをまずは十分に「理解」する。十分に「理解」したら、スミからスミまで覚えること。これから先の2学期の中間試験・期末試験、3学期の学年末試験で、各教科とも100点を取りたかったらどうするか。まずは、教科書のスミからスミまで、「ああ、そうなのか。これは、こういうことなのか」と、まずは十分に「理解」する。その上で教科書をスミからスミまで十分に覚えることです。

(7)このように勉強すれば、音楽も美術も保健体育も技術家庭も素晴らしい成績を取れます。学校で学ぶ教科はすべて大事にして、学校の教科書、授業ノート、教材を丁寧に、何回も手間をかけて勉強し、スミからスミまで覚え、100点満点を取ってください。必ず取れます。もちろん英語も数学も国語も理科も社会も全部、よい点数が取れます。大事なことは、授業をちゃんと聞いて「理解」し、その後に自分でよく勉強してわからないところをなくし、それが終わったらまたスミからスミまで勉強することです。

「計算問題」は、同じ問題を何回も繰り返してやり直せば、必ず100点が取れます。

(8)中学3年生は、群馬県の高校入試の問題については、過去に出題された問題(これを「過去問」と言います)を繰り返し何回も解き直して自分のものにするということです。では、何年分解いたらいいか。できれば、5年分は解いたほうがいいです。何回解いたらいいか。5~6回です。1回か2回ではなかなか自分のものになりませんから、中学3年生は過去に出題された問題を5年分位、できれば5~6回解いてください。すると、どんな高校の問題もすごく身に着くようになると思います。

(9)同じように、皆さんが社会に出てから、銀行員、警察官、消防士、鉄道員、バスやトラックの運転手さんになったり、病院や介護施設に勤めたり、役人になったときに、たくさん科目を学ばなければなりません。テストもたくさんありますから、今のような形で勉強してください。この中学校の勉強や高校の勉強は、そのための基礎・基本です。大学・専門学校・短期大学などで役に立ちますが、社会へ出てからも役に立ちます。テキストの学び方やテストの受け方も含め、すべて役に立ちます。

< 1日10回辞書を引く、1日30分新聞を読む、1日30分読書をする >

8. (1)「読解力」が大事です。文字や情報を正確に読み解く力がないと、つまり、書いてあることを正確に読み解く力がないと、学校で勉強するときも、社会に出てから仕事をするときも先に進みません。教科の勉強をしていても、また、仕事をしていても、正確に論理的・分析的に読み解く力がなければ先に進みません。特に、現代は知識基盤型社会、知識集結型社会といわれていますので、「読解力」が求められます。

(2)この「読解力」を身に着けるにはどうしたらいいか。ポイントが3つあります。

第1は、「辞書の活用」です。辞書を活用して「ことばの数」を増やすことが大切です。勉強していてわからないことばがあったら、「スルー」しない、「まあいいや」と思って飛ばさないで、「気持ちが悪い」と思って、辞書でその意味を調べてください。次に、辞書で調べたことを「意味調べノート」や「意味調べカード」に書き取る。「音読練習」や「書き取り練習」などをして、繰り返し学び直す。確実に身に着けてください。「ことばは力」「語彙(ごい)は力」です。身に着けていることばの多さ(語彙の多さ)が力になります。できれば1日10回、辞書を引いていただければと思います。

(3)第2は、「新聞の活用」です。新聞を毎日30分読んでみてください。新聞は1面からじっくり、なめるように読むことです。気になる記事・気に入った記事があったらハサミやカッターで切り抜いて、のりではりつけ、自分の意見や感想を書き加えたスクラップブックをつくる。新聞を毎日読むと、「自分で考える力」や、「これは、おかしいんじゃないか」と考える「批判的思考能力」が身に着きます。家で新聞を取っていない人はどうするか。これも簡単です。学校の図書室や村立図書館に毎日行き、新聞を読んでください。できれば、新聞は2つ位読むと素晴らしいです。

英語の好きな人は、わかるところだけでもOKですから、英字新聞にも挑戦しましょう。

(4)第3は、「読書」、本を読むことです。本を1日30分読んでください。「本格的な読書」で身に着くのは、「読解力」と「思慮深さ」です。

(5)1日10回辞書を引いて、1日30分新聞を読んで、1日30分以上本を読むと、すべての勉強の基本となる「読解力」が確実に身に着きます。また、立派な夏休みになりますね。ぜひやってみてくださいね。

<整理整頓(5S)が大事>

9. (1)仕事をする上で大切なことのひとつは、「整理(seiri)、整頓(seiton)、清掃(seisou)、清潔(seiketsu)、躰(shitsuke)」の「5S」です。ローマ字で書くとSで始まるので、5S(ゴエス)といいます。まず、「整理」で、要らないものを捨てます。そのあとは、きれいに「清掃」、掃除(そうじ)。そして、同じものは同じ場所に置く「整頓」です。とりあえず、自分のカバンの中や机の中、タンスの中から始めてくださいね。自分から進んで行くことを「躰」といいます。

(2)「躰」には、「美しい立ち居振る舞い」「美しいことば遣い」「元気なあいさつ」という別の意味もあります。

(3)皆さん、家族やお友達同士で仲たがいをしたときはどうしますか。それがつらくて、悩むこともあるとお聞きします。簡単な解決の仕方があります。それが「元気なあいさつ」です。相手があいさつをするのを待っていないで、はずかしがらないで、こちらから明るく、元気よく声をかける。「あいさつは、こちらからする。」これが、あいさつのポイントです。

(4)朝起きたら「おはよう」、ご飯を食べる前には「いただきます」、食べ終わったら「ごちそうさま」、家から学校に行くときには「行ってきます」、帰ってきたら「ただいま」、寝る前には「おやすみ」。これで家族との関係がぐっとよくなりますよ。

(5)お友達と仲たがいたときには、朝会ったら「おはよう」、別れるときには「バイバイ」、「さようなら」。それだけでもいいんです。できれば大きな声で。小さな声よりも大きな声でいうと、「ああ、あの方は私のことを好きなんだな」と思いますから。せっかくのお友達です。「元気にあいさつ」してくださいね。

<中学3年生の皆さんへ>

10. (1)受験を控えた中学3年生の皆さんにお伝えしたいことは、「何のために進学をするのか」、「高校には何をしに行くのか」、「高校を卒業してどうするのか」を考えることです。その上で、第1志望校を自分の力で決めること。そして、「受験生としての自覚」を持って自分から進んで勉強することです。受験勉強のポイントは、「自己責任」、「自分の未来は自分で決める」、「諦めない」ことです。
- (2)「学力」とは何か。「自分から進んで学ぶ力」、「主体的に学ぶ力」と考えます。受験勉強を通して「自分から進んで学ぶ力」を身に付けてください。高校に進学してからも、自分から進んで勉強してください。
- (3)中学校3年生の皆さんは、過去に出た問題や模擬試験に、これからたくさん挑戦すると思います。大切なのは、1回解いた問題を必ずもう1～2回解くことです。よくわからない問題は、教科書や教材を読み直して、わからないところをなくすことです。その上で、もう1回やり直す。試験勉強のコツは、わからないところをなくすことと、繰り返し同じ問題を解き直すことです。新しい問題をを次から次へやっても身に着きませんから、一度解いた問題や、授業で学んだ内容や問題を繰り返し勉強する。5回も10回も同じ内容や問題を勉強する、それがコツです。最後は厳しいことをいいますが、生活に必要な時間以外はできるだけ受験勉強に使う。「そんなにやるの？」というほど勉強する。生活に必要な時間と寝る時間以外は勉強する。部活動だと思って勉強することをおすすめします。
- (4)中学3年生の夏休みから勉強中心の生活に切り替えるといいですね。夏休みには、朝3時間、午後3時間、夜3時間勉強する。全部足すと9時間になりますよ。

<中学1・2年生の皆さんへ>

11. (1)中学2年生にお伝えしたいことは、職場体験で行く職場では、提供している製品やサービスの「お客様は誰か」ということ、それが「何の役に立っているのか」を考えてみることです。また、どの位の「価格」で提供しているのか。あまり高いと買いませんし、あまり安くても働いている人の給料が払えませんから、いったい「価格」をどうするのが大事です。どんな「場所」で製品やサービスを提供しているのか、なぜその場所にお店や工場などが立地しているのか。それから「広告宣伝」も大事です。例えばお医者さんでも、内科などと書いてないと患者さんはわかりませんからね。ではどのようにPRをしているのか、これも注意してみてください。
- (2)中学1年生にお伝えしたいことは、これからの中学校生活をどのように過ごしたらいいかを自分の力で考えることです。それから、中学校・高校・大学を出た後に、どんな仕事に就きたいのか、どのような一生を送りたいのかを自分の力で考えることです。

(3) せっかくの夏休みです。新聞を毎日読んで、読書も毎日行って、自分の未来を考えることが大事です。意味のわからないことばを辞書で引き、ことばの数を毎日少しずつ増やす。これが中学1年生におすすめです。

<図書館を積極的に使う>

12. (1) 「自分から進んで学ぶ」「主体的に学ぶ」という意味での学力を身に着けるとどうなるか。やはり選択肢が増えます。例えばもし自動車の運転免許の試験に受からなければ、自動車を運転できないわけですね。運転したら、免許証を持っていないので逮捕されます。私は昔、弁護士になりたくて勉強しましたがなれなかった。勉強が足りなかったのです。学力を身に着ければ、自分の就きたい仕事、やりたいことができるようになる。それを難しいことばでいうと、「多様な選択肢のある人生が送れる」ということです。
- (2) そのために大事なことは何かというと、図書館です。図書館を最大限利用する、これが大事です。皆さんの中には大学・専門学校・短期大学に行かれる方がたくさんいると思いますが、どこで勉強するのか。図書館はとても役に立ちます。大学生になるまで図書館で勉強したことの無い人は、大学に入ってから図書館の利用の仕方がわからないと、少し困ることになります。中学生の間は、中学校の図書室や村の図書館を使わせていただいて、図書館での勉強に慣れ親しむことが大事です。高校には必ず図書室がありますから、十分利用する。図書館を使いこなしてくださいね。
- (3) 自分の家族のよいところ、友達のよいところ、学校のよいところ、高山村のよいところ、群馬県のよいところ、日本のよいところをどんどん探してください。どんどん探して、みんなでお話し合いながら、よいところを力を合わせて、少しずつでも、伸ばすことです。よいところはたくさんありますよ。これに加えて、自分のよいところを1つでもよいですから自分の力で探し、自分の力で伸ばすことです。自分のよいところ・素晴らしいところを伸ばすのに、遠慮は一切不要です。一生かけて、少しずつでも、思い切り伸ばしてください。
- (4) スマホが大好きな人が多いと聞きます。スマホばかりいじっていたのでは困りますので、少し控えてください。スマホが好きだったら、スマホを作ったアップルの創業者スティーブ・ジョブズの伝記をぜひお読みください。なぜ作ったのか考えれば、実はスマホがもっとも楽しく、またうまく使えます。
- (5) 心の健康と体の健康に気をつけてください。疲れたら休んで横になる。十分な睡眠をとる。人生は長いですから「健康第一」です。ぜひ健康に気をつけてください。
- (6) せっかく生きるのなら、楽しく生きたほうがよいと思います。そのためにはやはり、仕事をしたり、いろいろな活動をしたり、友達と会ったり、そういうことも大事です。

以上で私の話を終わりにします。楽しい夏休みをお過ごしください。中学3年生の方は、勉強中心の夏休みにしていただければと思います。どうもありがとうございました。